

第２回（仮称）学習文化交流施設基本計画検討委員会会議概要

【日 時】平成２１年１１月４日（水） １４時００分～１６時２０分

【出席者】委 員：１２名(欠席１名)

事務局：政策企画課長、まちづくり推進室３名、生涯学習課１名

コンサルタント：１名

【質疑概要】

○図書館機能

委員：図書館機能のスペースごとの閲覧席数の根拠は？一般は３０席では足りない。

コンサル：概算で面積等を出している。席を散らせ利用者が場所を選べるように意図した。

委員：現状はスペースが狭い、一方通行で不便だから年間２万人の利用者だが、便利になると６万人になるという目論見か？

事務局：それを想定している。

委員：立山文庫(十和田図書館)は今のままで、２館の関係というのは変わらないのか？

委員長：２館の関係は本館、分館という考え方か？

事務局：花輪図書館が中央図書館的な機能。十和田図書館は分館でなく一つの図書館。

委員：現在の組合病院と比べ施設トータルでどれぐらいの利用者数を見込んでいるのか？

事務局：図書館は６万人と試算している。市民センターが現状で年間５～６万人。類似する文化ホールをみると２～３万人。足せば１５万人以上、それに子育て支援施設。機能が一体化することによる相乗効果で、組合病院の年間利用者２５万人に数字上では近づけていければと考えている。

委員：１０年後、２０年後の将来の人口動静をどうみているか？子ども達も当然減少する。人口の年齢は年々上がっていく。

事務局：人口が減る中でも運営面で工夫し便利に利用していただけるようにしていくことが必要。

委員：この施設によって１０数万人年間見込める根拠は？現実的にはこのぐらいの人数だが、いろんな活動をする努力、市民を巻き込んでいくことによってプラスアルファこのぐらいの人数を確保出来るのではないか？というところまで示して欲しい。

委員長：利用推計については中々難しい部分あると思うが、お示しいただくということで。

委員：市民センターと文化ホールは非常に結びつきが大きく、鹿角市にいくつかある市民センターの中で中核的な機能も持たせながら文化会館と結びつき機能していかなければならない。

事務局：現状では地区ごとに生涯学習活動、社会教育活動を地域づくりという名の下に地区ごとに別けているような状況にはあるが、複合施設を整備するにあたってそれぞれの施設の位置づけ、その社会教育の中の位置づけ、全体の位置づけ、各地区ごとに位置づけ、そういう仕組みは検討していかなければならない。

委員：司書が居る学校図書館では蔵書数等と関係なく図書館を利用する生徒が何倍も増えた。いかに魅力ある図書館にするかという人の問題。ソフトの面も同時に考えていただきたい。

委員長：最近非常に子ども達が本を読む機会が増えている。それは家庭とか学校の教育の成果だと思う。ちゃんとしたソフトと言うか、システムを整備していくことが重要と思う。

○文化ホール

委員：スポーツセンターの行事の利用者数と回数のデータを知りたい。

事務局：20年度の実績で体育関係、スポーツ関係の利用も含めて4万8千人弱。内、文化関係の事業が13件、7千人弱、1回あたり5～600人規模の利用状況。

委員：花輪市民センターではここ3～4年間は利用者数が増加傾向にあり、昨年度は53,445で今年度も大体昨年度ぐらいと概算している。なので、工夫次第で人口は減っても多くの方に来て頂けると思う。あと資料6ページの資料2の(1)に「現行市民センター利用(200人以上)のうち半数程度の利用が見込まれる」とあるがこれはどういう意味か？

コンサル：現況の最低でも半分は利用してもらえ、という希望的な部分を含めた。全体的にすべてが移るということも想定はされる。

委員：私たちフィルムコミッション「ロケーションかづの」は立ち上げてから4年経った。仮に映画が鹿角で撮られても映画館が無いのが鹿角市の現状。市民の方に地元で撮った映画を見て頂けるような施設にもして頂きたい。音響設備だけでなく映像にも配慮頂ければ。規模について想定で700名とあるが上下する可能性は？

事務局：実際に図面を書いた場合に若干数字が上下するが目標700で提案させていただいた。

委員長：700と想定した根拠は？

コンサル：外部から何かを呼んで行った場合の想定数で無く、あくまで市民が利用するためのホールを第一に考えて出した数字。

事務局：去年700名程度の入場者があった鹿角音楽祭が目標の設定の根拠のひとつ。

委員：700でだいたいと思う。スポーツセンターは別だが、花輪のホールを使っている団体を見ると600位で間に合うかと思う。補足資料の想定表に小ホールがあるが、この小ホールが一番活用される。舞台がある小ホールを想定しているのではなくリハーサルのためだけのスペースを想定しているのか？

コンサル：基本はリハーサルをメインに考えていたが要望によっては簡単なステージをつけられる位のスペースは設けたい。

委員：地区内のほかのスペースとも連携、ということだが、MITプラザに舞台があり、交流センターにもあり、山村開発センターにもある。ストーンサークル館にも立派なホールがある。そういう所との関係をどのように考えるのか？

事務局：大ホールが十分に機能を果たすためにはリハーサル面で小ホールは必要。花輪市民センターを併設する場合、行事等で大ホールまでいなくても講堂の小さいホールがあればいいということでは小ホールを活用できるのではないか。ただ、小ホールを造ることが決まったわけではないので、案ということで皆さんから意見をいただきたい。

委員：あちこちに同じような規模のホールが点在していて、実際に私も何かやろうという時に中途半端な大きさで使いにくい思いをしてきたので、700がいいのか、1000がいいのか、いくつがいいのか分からないがくれぐれも中途半端な大きさにならないようにしていただきたい。

事務局：幾らが適切かということでは皆さんのご意見が大変参考になる。一番活用されやすい、市民が使いやすいという部分が必要。

事務局：拠点施設ということで市民が一堂に会せる規模として700を目標にしている。いろいろな活動のために市内あちこちから集められる規模の設定になる。

委員：小ホールはあったほうがいい。リハーサルだけでなく、花輪市民センターのホールで行っている活動をするには小ホールが適切と思われるような団体がたくさんあるので、是非造っていただきたい。その際天井を高めにとっていただくと、大変活動の幅が広がる。それから花輪市民センターが防災の避難所になっており、避難するときに小ホールのように何も無い平らな所が必要。そういう意味から是非小ホールは確保してください。

委員長：今日の説明には防災拠点的な考えはなかったが、今回の施設では考えているのか？

事務局：各市民センターと花輪では福祉保健センターが一次避難所として指定になっているが、花輪市民センターは新設されても防災の拠点になると思うので、必要だという意見はよく分かる。

委員：さきほど安保さんが話された映写の件は？人が集まるためには是非とも必要だと思うが。

コンサル：ホールの舞台部分にスクリーンを設ける考えだが、映すための機能について、どの程度のものまで必要かはこの後の協議のなかで進めていきたい。

事務局：多目的な利用の一つの形態として検討していく。

市民センター

委員：今の市民センターと機能が同じでただ場所だけ移るのか、いろいろな機能を考えながら新しい市民センターを想定しているのか？

事務局：スタンスとしては今度新しい市民センターを造るということ。

委員：私達の鹿角市の市民センターができる、文化会館ができるということで市民の皆さんの応援をいただいていたかなければならないという意味。今の市民センターがだめだということではなく現在の市民センターの良いところがあるわけで、それに加えて市民の意識替えも願ってということ。

事務局：即答できない点もあるが、全市を一体的に統括するような市民センターの中核的な機能を持つのか持たないのかという点だと思うが、持たないということではなく検討中の面もある。意見を皆さんから伺う機会にでもいろんな面から意見を出していただきたい。

委員長：新しいアイデアとかお話いただければ施設のほうに反映させていただけると思う。

委員：地域づくり協議会で検討中なので意見をある程度まとめてからお話したほうがいいと思う。

委員長：ここのところはまた検討いただくということで。

○子育て支援センター

委員：今ある支援センターはサポートセンター、支援センター、児童クラブも全部入っているが、その中からサポートセンターと支援センターが移ってくるのか？

事務局：児童センターはもともと児童クラブの場所で、後から支援センターとファミリーサポートセンターが入った状態なので、子育て支援センターとファミリーサポートセンターを移す。

委員：こういった区割りをしてこういったものを入れるかはこれからの話し合いで決めていくのか？

事務局：これからご意見をいただきながら、具体的な施設の構成をしていく。

委員長：この議論は実施設計まで入っていかなければなかなか難しい部分があるかと思う。

○交流スペース

委員：特に用事がなくても集える空間にこの跡地全体になってほしい。

委員長：この交流広場はどういう使われ方をしたいのかということちゃんとした要望がないと今おっしゃられた中身にはなっていないと思う。だから１年を通して、春はこういうイベントを市民レベルでやりますとか、バザールをやりますとかというような年間のプログラムが出来ていないと空間的に落とし込むのは難しいと思う。この委員会の場でその細かい部分までできるか分からないが、場合によってはもう少し計画を詰めていく段階でいろいろなレベルのところから意見を伺わないとおそらく実際の設計に落とし込めないと思う。そういうプログラムを作っていくことを基本方針でうたっていくような取り組み方をされたらよろしいかと。

（２）複合施設の構成計画について

委員：今の病院のように一方通行でひまわり薬局の所から出るという方式がそのままのようだが、旭町から入る道路があのみまでは駄目。

委員：市民センターの設備が２階になりそうだがということだがエレベーターを是非設置して欲しい。

コンサル：この施設に関わらずバリアフリー化とか福祉の条例等もありエレベーターは整備すること考えている。どれ位の大きさにしたいかとはご意見をいただきたい。

委員：人がいっぱい集まってくる観点を求めたい。一番人が集まるのは店。施設の外に作れる場所を。

立ち寄り子どもにスポットライトが当てられて、老人になろうとしている人にはない。

事務局：敷地内で物販的なことが常設できるかは厳しい面があるにしても、この交流広場の活用の仕方によっては、イベント等、あるいは臨時的な販売等も不可能ではないと思う。

委員：まちの中心に充実した公園があるのが理想。交流広場が、例えば子ども達が遊んだり、図書館で借りた本を読んだり、お弁当を広げて食べたりとか。そういう使い方ができるか。

委員長：おそらくこれから。要望として受け止めてもらいたい。

委員：プロジェクトを進めるうえでテーマを、鹿角らしさというものをしっかりと落とし込んで造っていただきたい。あるいは施設全体にらしさを。

委員長：テーマというのは、例えば全体の施設の内容を示すようなキャッチフレーズという意味か？

委員：このエリアは、例えば、鹿角の杜、鹿角の街の中にある杜とかそういうものがあってそれに基づいて交流スペースなどもリンクしていく形にしないと、ただ単にでっかい建物がぼつぼつとくっついて交流するスペースで何となくつながっている感じになりかねない。

委員長：全体のコンセプトを一言で表すキーワードは難しいと思うが、いろいろな合意を創り上げていくうえで非常に大事。皆さんで創られたらどうか？

委員：形としてまとまってきたときに市民から募集してもいい。

委員長：この建物がユニークでこのまちらしいものになれば、愛称のようなものが付いたり、中身を表すようなキーワードで表現されるかと思うが、皆さんで考えていただいたらいかがか。

コンサル：コンセプトとしては、せっかくこういう委員会があるので、そういったなかでテーマを決めていくということがとても大事。ネーミング等、建物の形がある程度決まった段階で、この建物の愛称とかネーミングとかをどうするのかというのはやはり市民の方に公募いただくとかが一つの姿。

委員長：今すぐということではないが、この委員会で方向性を出すときにはまとまってくるかと思う。

3 その他

事務局から視察案内と次回以降の日程説明。

16：20終了